

街道を歩く

中山道：中津川宿一坂本



ショウガン塚

岡田将監善向は関ヶ原で東軍に属し
慶長6年(1601)采地五千石を与えられ
可見郡姫村に住み初代美濃代官大久保
長安の配下であった。長安の死により
二代目代官になる。将監を伝えるものが
かってこの地にあったが「ショウガン塚」は
将監塚の訛伝かといわれている。



東山道坂本駅

東山道は美濃の国坂本駅を経て信濃の国
阿智駅へと通じていた。この間は長丁場の
の上急峻な神坂峠越えがある難所であった
坂本駅は定かでないが小手木坂あたり、
或いは千旦林といわれている。



千旦林高札場跡

双頭一身道祖神

道祖神の像型は多様であるが共通点は男女相愛の
柔和なものである男女別々の頭を持ち肩から足元かけて
一体となっているのは珍しい。文化13年(1816)建立
像の左上に「是より苗木道」の刻文があり中山道の
脇街道苗木道の道しるべとなっている(案内板より)



馬頭観音

双頭一身道祖神

一里塚

駒場高札場跡

小手ノ木坂

上宿道上

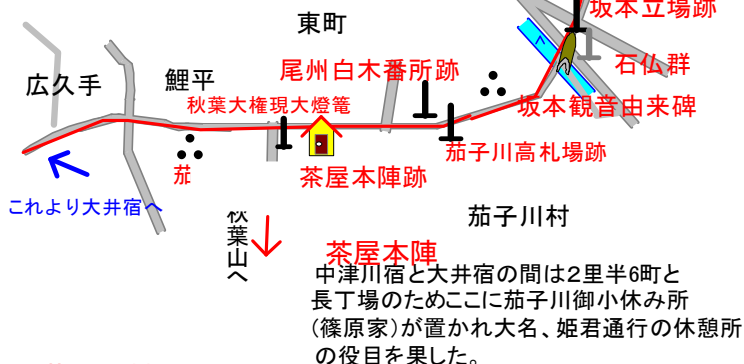
小石塚立場跡



小手ノ木坂道標

白木番所

この番所について詳しい記録はないが
享保16年(1731)に茄子川下新井に
川並番所が設けられた記録があり、
これに対応して設けられたと思われる。



六地藏石幢

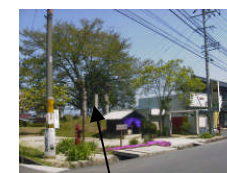
南へ100mへ入った所に大林寺(現中洗井)が寛永10年
(1633)建立され24年後明暦3年(1657)建立されている。
中山道からの分岐に建てられの寺への入口として
またたびたび水害があったので仏にすがって避ける
ためであった。(案内板より)



茶屋本陣と秋葉山灯籠



茄子川高札場跡



上宿一里塚



中津川IC近くの詳細

茄子川村

江戸時代初期、茄子川村は尾張徳川家その給人山村氏
(木曾氏)、千村氏(久々利方)、それに旗本馬場氏ら
8人の入相支配であった。村石高は1368余石でこの付近
では大きい村であった。中山道は村内を東西に縦貫し
中町の西はずれの常夜燈は安永5年(1776)建てられ
「是よりあきはみち」と刻まれている。遠州秋葉道の
分岐点となっている。(案内板より)